

効果的なさし芽用土の使い方

- 十分に水を掛け、さし芽用土全体に均一にしみこませます。
- 約一週間程度放置し、有益微生物の増殖を促します。

1 さし芽用土を必要量取り出す。



育苗箱など水が抜ける容器

2 全体に染みこむまで水を掛ける。



約10分間隔で2~3回掛ける。

保水剤がゼリー状に見える。



3 乾燥防止に新聞紙を3~4枚かける。

新聞紙には充分水を染みこませておく。



約1週間放置し微生物の増殖を促す。
※従来通り土のう袋でも良い。

4 サシ芽をする。



ポット挿し(写真)従来のように箱挿しでも良い。

乾燥防止にポットのすき間には古土を入れるのは厳禁。クン炭又は無菌の用土を使用する。(病原菌の持ち込み防止)

微生物の力で病原菌を押さえ込み“立ち枯れ”を予防する



“有菌か無菌か”・・・この考え方の違いが菊づくりを大きく変える
従来のサシ芽用土は無菌・・・きわめて危うい発想です。

“サシ芽の立ち枯れ”一旦、発生するとサシ芽箱はまるごと被害が及ぶことが多い。
発生すると薬剤散布では止められない。

その原因は、「サシ芽用土は無菌、病原菌が居なければ発病はしない」この考え方にあります。

苗立枯れ病は土中病原菌により引き起こされます。

無菌のサシ芽用土は病原菌の侵入を許すと他の微生物に抵抗されることが無いため、爆発的な勢いで増殖させてしまいます。

前もってサシ芽用土に有益微生物を増殖させておけば、先住の微生物の抵抗を受け、簡単には勢力の拡大はできない為に、発病に至ることはほとんどありません。

また、発病したとしてもごく限定した部分の被害で食い止めることができ最悪の状態には至りません。

さらに有益微生物の産出する植物ホルモンやビタミン等々は発根促進、体質強化など多方面に大きな効果をもたらします。 — これが“サシ芽用土は有菌”の発想です —

サシ芽に最適なスリットポット

・・・おすすめ度 No.1 ポット

- ・ 根は上から鉢底に向かって伸びる。
根巻きしないため、根が老化しない。

効果的な使い方

発根が始ったら液肥 1~2 回与える (みらい)
6 センチポットで 20~25 日を目安に鉢上げ
7.5 センチポットで 25~30 日を目安に鉢上げ



6センチ又は7.5センチ

サシ穂は充実したよい穂を採取する。親株の管理は最重要

お申込み・お問い合わせは

ウチダケミカルコーポレイション

Tel.029-869-1777 Fax.029-869-1666

〒300-4204 茨城県つくば市作谷1711-12 郵便振替 00820-6-96628